

Citation: Outhouse TL, Al-Alawi R, Fedorowicz Z, Keenan JV. Tongue scraping for treating halitosis. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 2. Art. No.: CD005519. DOI: 10.1002/14651858.CD005519.pub2.

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 20 February 2006

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; -

背景:「口臭」は、その由来に関係なく呼気のいかなる不快な臭いを表すのにも用いられる。口臭を隠す洗口剤は、舌こきに比べてより社会的に受け入れられており、全般的に人気がある。

目的:口臭をコントロールするために、洗口剤を含む他の介入に対する舌こきの有効性に関して、信頼できるエビデンスを提供すること。

検索戦略:我々は以下のデータベースを検索した。Cochrane Oral Health Group Trials Register(2005年9月15日まで)、the Cochrane Central Register of Controlled Trials(2005年Issue 3まで)、MEDLINE(1966年～2005年9月第1週)、EMBASE(1974年～2005年9月、2005年9月19日に検索)。

選択基準:口臭を持つ成人において、口の臭気を減らすためのいくつかの舌清掃方法を比較するランダム化比較試験。

データ収集と分析:2つの研究の間における臨床的異質性がデータを併合して計算することを妨げたため、記述的要旨を提示する。

主な結果:このレビューは、40人の被験者が関わる2つの試験を含んでいる。どちらの試験も方法論的に頑健であったが、本レビューにおいて指定された主要なアウトカムのデータをまったく含まない。揮発性硫化物(VSC)レベルとして表される副次アウトカムは、いずれの研究においてもポータブル硫化物モニターによって評価された。1つ目の試験では、舌クリーナーで42%、舌こきで40%、歯ブラシで33%のVSCレベルの減少が認められた。VSCレベルの減少は、歯ブラシよりも舌クリーナーでより長く持続し、どのグループでも介入から30分以上検出されなかった。相違は、有意水準5%でフリードマン検定とウィルコクソンの符号付順位和検定を利用して評価された。2つ目の試験では、順位和のグループ間の差は、有意水準1%でボンフェローニ法を用いて多重比較されており、ベースラインと比較して舌こきで75%、歯ブラシで45%のVSCレベルの減少が認められた。1つ目の試験では、有害事象として歯ブラシによる吐き気(60%)と外傷(10%)があり、すべての参加者が舌こきの使用を受け入れた。これらの2つの試験からの独立したデータにもとづき、舌クリーナーあるいは舌こきの歯ブラシと比較したVSCレベルを下げる効果に統計学的有意差が認められた。

レビューアの結論:成人の口臭を減らす目的で、歯ブラシを使用するよりも、舌クリーナーや舌こきを使用する方が、わずかではあるがVSCレベルの減少に統計学的有意差がみられる、という提示するには弱くて頼りないエビデンスがある。舌清掃の他の形式と機械的に比較している高レベルのエビデンスは見いだされなかった。

(翻訳 鈴木 奈央・監訳 佐々木好幸; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。